医療法人誠和会　和田病院 ・ メディケア盛年館

院外広報誌

誠和会だより

発行責任者　医療法人誠和会　　理事長　和田徹也

2020年1月発行

2020年元旦 北アルプス燕山荘からの初日の出

＜ 和田病院　基本理念 ＞

「個人の尊厳と人間愛に基づく医療を目指す」

＜基本方針＞

1. 日向入郷医療圏において、救急医療、災害医療、脳卒中を中心とした安全で質の高い医療、の提供に努めます。
2. チーム医療を推進し、患者様が安心して療養生活ができる療養環境を提供します。
3. 地域住民の健康増進と疾病予防に寄与します。
4. 医療安全対策、個人情報保護に努めます。
5. 患者様の個別性を尊重し、患者様中心の医療を提供します。
6. 働きやすくやりがいの持てる職場環境作りに努めます。

CONTENTS

・医療法人誠和会 和田病院基本理念	1
・2020年の初頭の ご挨拶	2
・各部署長からの 新年のご挨拶	3
・一次脳卒中センター（PSC）認定 ・外来担当医一覧	4

2020年の初頭のご挨拶

医療法人誠和会 理事長　和田徹也

令和年号になっての初めての正月でした。祝月とも言うようですが、いかがお過ごしでしたか。「初春と　いひていつもの　天の星、山口誓子」と同じ感じで、令和2年の新年もいつもと同じように迎えてしまいました。今年はどんな年になるでしょうか？あらためましてご挨拶申し上げます。

◆昨年は気候危機と表現される大臣がおられました。

東京地方で、今年は10月半ばから11月末までの間に木枯らし1号が吹きませんでした。このような事が2年続くのは史上初のようです。気圧配置が西高東低の冬型にならず、季節風が吹かなかった為といわれています。サンマも例年の水揚げなく、脂がのらずおいしくありませんでした。海水温が例年より高く、サンマが日本に寄りつかない。温暖化です。近辺の紅葉もさえない。小泉環境相は今までの「気候変動」という表現を、「気候危機」と変更し国民の意識の目覚めを促すとのことです。炭素発現を減らす動きは世界的ですので、暖房を控え自然資源を大切にしたいと思います。地球環境が健康でないと自然災害が猛威をふるい、私たちも生きられなくなります。今年の自然災害といえば、台風の記録的な大雨により多くの地域が被災し未だに影響が残っている地域もあります。これは、社会資源というインフラが老化現象を起こし（インフラ老朽化）、災害に弱くなっていることを意味しています。私どもが老化しますと、疾病になりやすくなるのと同じです。加齢で体力や気力が衰えてきます。このことを、運動器症候群（ロコモティブシンドローム）・筋力低下（サルコペニア）・身体・認知機能低下（フレイル）といいますが同じことですね。個人差はありますし、年齢の幅もあります。私は老化の防御として無理のないお金のかからないメンテナンスを毎日やっています。社会では「インフラメンテナンス国民会議」があり、そのメンテナンス産業の創出や官民での老朽化対策が、危機感をもって始まっているようです。

◆誠和会の病院での令和元年の動きですが、

昨年は、日本病院機能評価機構より5度目の認定を受けました。今後も継続的な質改善活動を推進していくことが大切だと思っています。

また、9月には日本脳卒中学会より「一次脳卒中センター」として認定を受けています。「一次脳卒中センター」とは、地域の医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が、患者搬入後可及的速やかに診療（rt-PA静注療法を含む）を開始できる施設のことを言います。責任重大です。

◆医療・介護をめぐる動きの状況は、

少子高齢化に合わせて、団塊世代のジュニアが後期高齢者となる2040年に間に合わせようと、①地域医療構想はじめ医療介護体制を改革、②人生100年時代への社会改革（年金制度、定年制度、高齢者の働き方増進など）をも進めています。

これからの高齢者の働き方も変化しそうです。高齢者にも働きやすい環境や制度作りで稼いでもらうとのことです。すなわち「全世代型社会保障制度」といって、若い年代だけでなく、お年の方も含め、全世代で社会保障を支える社会を目指す制度のようです。

私共が進める「患者さん中心の医療」は変わりませんが、今後は院外に出て保健、介護、福祉活動を実践し「在宅医療」をはじめ、地域に密着した行動が重要な役割だと思っています。

今年もよろしくお願いします。

新年のご挨拶

事務局長
井上　和彦

あけましておめでとうございます。
今年は診療報酬改定の年です。収集されたデータをもとに、ますます効率化を求める施策が織り込まれてくると思われます。高齢者人口の増加と共に訪れる人口減少の影響は、支える人口の減少に拍車をかけています。
今後、我々医療機関がこの地域でどういう役割を担えるのか、早急に検討すべき時が来ています。

看護部長
黒木　雅代

新年明けましておめでとうございます。
今年の干支は「子」。「繁栄の象徴」との説もあるようです。昨年「猪突猛進」と密かな意気込みでいた「猪」年の私は、減速することが多い1年でした。一人では何事もなし得ない訳です。
今年は、周囲を見渡しながら、みんなの後をちょろちょろとついて行き、目標に向かって後ろから支援してみようかと。

診療技術部長
荒瀬　裕之

新年あけましておめでとうございます。
今年もまた診療報酬改定により忙しくなる面もあると思いますが、昨年のラグビーワールドカップが日本中を沸かせたように今年は東京オリンピックで盛り上がることを期待しながら仕事を頑張っていきたいと思います。
本年もよろしくお願い致します。

リハビリ技術科長
大森　真理

穏やかな新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。
当院のリハビリでは、発症直後の介入から、退院後、生活しながらの時期への対応まで連携しながら提供させて頂いています。地域の大切さが重要視されている昨今では、地域や行政と協力しながら圏域の皆様のお役に立てるよう活動しています。
本年も、どうぞよろしくお願い致します。

画像診断技術科長
谷口　新一

あけましておめでとうございます。
今年度も安全で診断価値の高い画像提供を目標にスタッフ一同取り組んで参ります。
また安心して検査をうけていただけるように放射線被曝の管理と記録に取り組む年としたいと思います。
今年度もどうぞよろしくお願いします。

薬剤部科長
松澤　信治

新年あけましておめでとうございます。
昨年は、業務の効率化と安全をテーマに取り組んで参りました。徐々に効果が出始めて間違いは格段に起こりにくくなりました。
今年は、薬物療法の質を上げられるように取り組みを行っていきたいと考えておりますので、今年も宜しくお願い致します。

臨床工学科長
桑田　幸伸

新年明けましておめでとうございます。
当院での臨床工学技士業務は、透析及び医療機器の保守点検、勉強会等を通して医療安全業務の一部を担当しています。
臨床工学技士としての特性を活かし少しでも地域のお役に立てる様日々精進していく所存です。
今年一年安全、安心の医療を提供出来る様頑張っていきたいと思います。

栄養管理科主任
河野　純子

新年あけましておめでとうございます。
今年の干支は「子」十二支のサイクルがスタートする年で、医療業界では診療報酬改定の年でもあります。様々な改革が進められるようですが、患者さんが活き活きとした生活が送れるよう、患者さんに寄り添った食事・栄養管理を忘れないようにしたいと思います。
どうぞよろしくお願い致します。

医事課主任
黒木　健朗

明けましておめでとうございます。
昨年は、患者様方へのサービス向上を念頭に、医事課として何をすべきかを一人一人が考え、業務に取り組んできました。
まだまだ患者様方に満足して頂けるサービスのレベルには至っておりませんが、引き続き努力していきます。
又、診療報酬改定の年でもあります。医事課職員一丸となって頑張ります。

医事課主任
三村　隆之

本年もどうぞよろしくお願い致します。
地域の皆様から見て当院の外来受付や病棟の医療事務員はどのようなイメージでしょうか？「頼りになる」「安心できる」そのように感じて頂けるよう、前例踏襲のやり方ではなく常に考えることをテーマに医事課全体で成長する一年にしていく所存です。
皆様からのご意見もお待ちしております。

盛年館事務長
坂本　博樹

新年明けましておめでとうございます。
盛年館は多様な専門職を配置しており、昨年も看護・介護は勿論、通所・訪問のリハビリ、看取り対応、出前の介護教室等行いました。施設としては地域における「拠り所」になれればと思っております。
今年も地域の皆様に頼りにされる施設になれるよう、職員一同尽力して参りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

地域連携室長
三輪　晴美

新年明けましておめでとうございます。昨年、10月より、地域連携室室長を拝命致しました。院内外問わず、多職種連携がスムーズに行えるように、支援したいと思います。
今年度の診療報酬改定は「2040年を見据えた全世代型社会保障」へとキーワードが切り替わる点と言われています。20年後をイメージする事は、難しいですが、生活者である自分たちが、住み慣れた地域で暮らしていけるように、地域に根付いた活動を目指して行きたいと思います。

一次脳卒中センター(PSC)に認定されました！

このたび日本脳卒中学会から「一次脳卒中センター(Primary Stroke Center :PSC)」に認定されました。これは脳卒中と循環器病の年齢調整死亡率を減少させ、健康寿命を延伸させることを目的に「脳卒中と循環器病克服5カ年計画」が策定され、それに基づく新たな認定制度です。

地域の医療機関や救急隊からの要請に対し脳卒中患者を24時間365日体制で受け入れ、速やかに診療を開始できる体制を整えています。当院脳神経外科では、該当する急性期脳梗塞に対するt-PA静注療法や、専門的技術を要する血栓回収療法(脳血管内手術)も積極的に行っており、脳神経外科医が常時オンコール体制で待機し、迅速かつ的確に、最良の診療を提供しています。

認定証

施設名 医療法人誠和会 和田病院
所在地 宮崎県日向市向江町一丁目一九六一
認定期間 自 二〇一九年九月一日
至 二〇二一年三月三十一日

貴施設を日本脳卒中学会
一次脳卒中センターとして
認定いたします

二〇一九年 九月一日

一般社団法人日本脳卒中学会
理事長 宮本 享
脳卒中センター認定委員会
委員長 齊藤延人

＜外来担当医一覧＞

		月	火	水	木	金	土
脳神経外科	午前	山﨑浩司	(手術日)	山﨑浩司	山﨑浩司	山﨑浩司	大学医師
	午後	—	—	—	—	—	—
外　科	午前	工藤俊介	工藤俊介	工藤俊介	和田徹也	工藤俊介	大学医師 または 非常勤医師
	午後	工藤俊介	工藤俊介	工藤俊介	大学医師	工藤俊介	—
内　科	午前	伊藤康司 堀之内寿人	伊藤康司 堀之内寿人	松田基弘 大園芳範 (肝 臓)	伊藤康司	伊藤康司 堀之内寿人	大学医師 または 非常勤医師
	午後	伊藤康司	佐々木規	松田基弘 大園芳範 (肝 臓)	—	関根雅明	—
総合診療科	午前	—	—	—	胤末壽史	—	—
	午後	—	—	—	胤末壽史	胤末壽史	—

医療法人誠和会　和田病院

〒883－0051　宮崎県日向市向江町1丁目196－1
TEL:(0982)52－0011㈹　FAX:(0982)54－1012
ホームページアドレス：https://wada-hosp.or.jp

関連施設
介護老人保健施設　メディケア盛年館　TEL:(0982)53－8788　FAX:(0982)53－8780
和田病院指定居宅介護支援事業所　TEL:(0982)55－9035　FAX:(0982)55－9036
日向市大王谷地域包括支援センター　TEL:(0982)50－1010　FAX:(0982)50－1011